

アマチュアの高校一年生の少年が男子ゴルフ競技で、並み居るプロに競り勝ち、優勝栄誉に輝きました。小生も十数年前までこのスポーツをしておりましたので、判るのですが、勝負がかかった時のホール毎、一打ごとのプレッシャーは大変なものです。特に、最終日(男子の大会は四日間で行われるのが通常です)、後半の数ホールでのそれは、早く結果が欲しくて、ついつい早打ちになってしまったり、考えすぎて身体に要らぬ力が入ったりして、良い結果が出ないことがあります。この事は、他の競技においても同様だと思います。いつも惜しいところまでいくのに、優勝に届かない人は、このあたりに原因があるのではないのでしょうか。それを人は、精神力が弱いと一言で決めつけがちですが、それを克服できる人は少数だと思います。即ち、優勝者は、その競技に勝ったことより、自らに勝ったことになると思います。

小生は、前述しましたが、ゴルフを十数年前に止めてから今日まで、趣味らしいものを持っておりませんが、若い時期には、パチンコ・ビリヤード・野球・ボーリングと球技は何でもこなしたものです。そのなかでも野球においては、西宮市野球連盟から十五年永年選手の表彰を授与されました。また、二十代前半からほぼ十年にわたって、ボランティアで少年野球の指導者をしていました。独り身の頃でしたので、時間や家族の制約はなく、休日には対外試合(姫路や相生等の県西部にも)で、平日は毎日のように少人数での練習と、小学生選手と一緒に野球漬けの日々でした。卒業生の多くは、公立・私立を問わず高校で野球部に属し、甲子園を目指しておりましたが、小生の関わった選手の中からは、プロまで進んだものはいなかったと記憶しております。

先般、一部のプロ野球球団の「青田買い」が発覚し、社会人野球選手と大学野球選手が、一人ずつ実名でマスコミに報道されていきました。それに連動されるように、「特待生」問題が、高野連(高校野球連盟)を含めた社会問題として扱われました。この「特待生」、広辞苑によりますと、『学校において、成績・人物優秀で、他の学生の模範であるため、授業料免除・学資給与などの特典を与えられた学生』とあります。各学校単位で一定の評価に基づき、この制度を施行することには何の問題も無いと思います。上記の『・・・成績』とは、全ての教科の平均点だけではなく、ある教科のみが抜群に秀でていることもそれに当たると思います。昔から「文武両道」とは申すものの、それを兼ね揃えるなんてことは、非常に難しいことです。ならば、そのいずれかのみに秀でる者を特待する。それはさしたる問題ではなく、それより、特待されて入学した時点が入口と考え、数年を経た出口の所で、如何に幅広い見識を持った人間に成長出来たか、プレッシャーに打ち勝つ強い精神力を養うことが出来たか否かが教育の持つ力ではないだろうか。

アイ設備

TOTO リモデルクラブ店・西宮介護リフォーム協会員

〒662-0953 西宮市堀切町2-24 フリーダイヤル 0120-600-518 ファクシミリ 0798-22-0160

ホームページアドレス <http://www.aisetsubi.com/> E-mail info@aisetsubi.com